

2°C

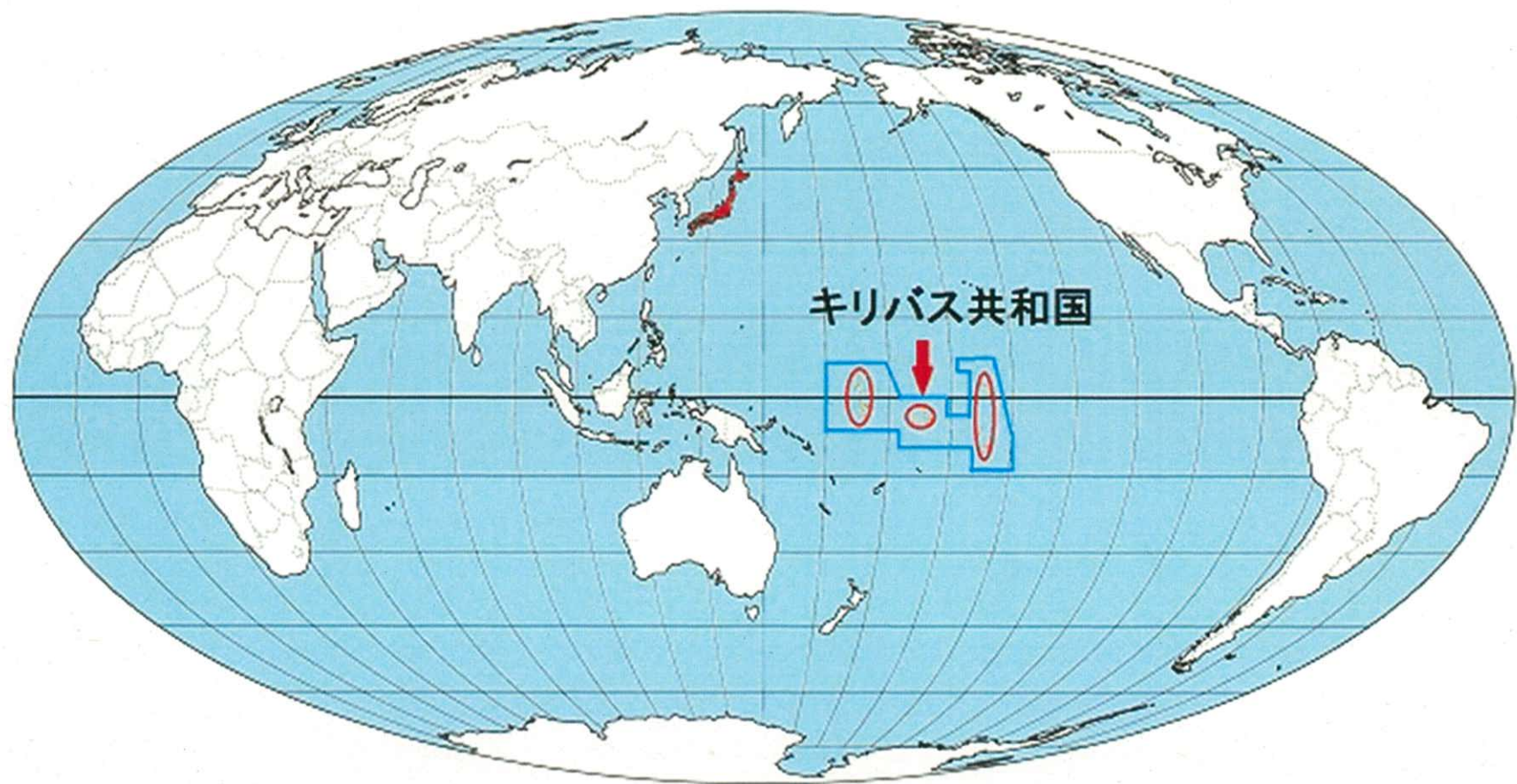
未滿

1.5°C

以下



キリバスの位置







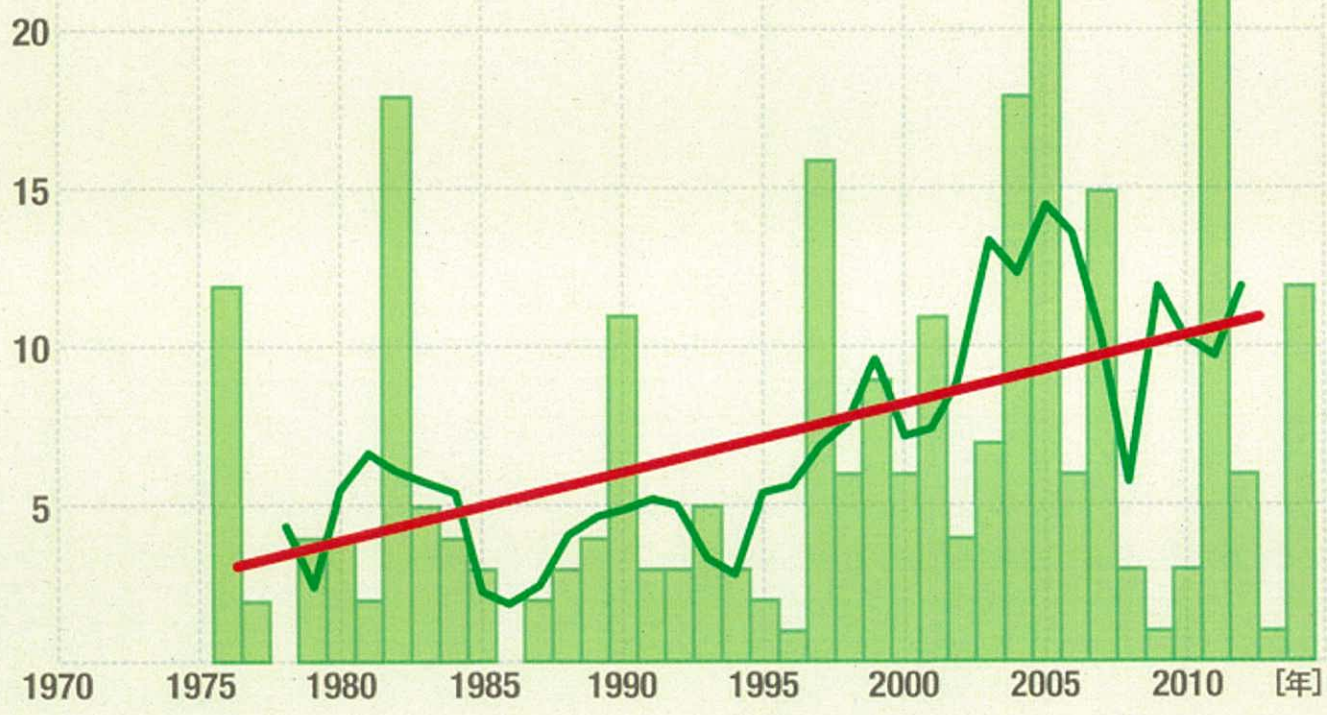


[回] 日本の大雨の回数は 35 増えているの？

30 日降水量400mm以上の年間観測回数

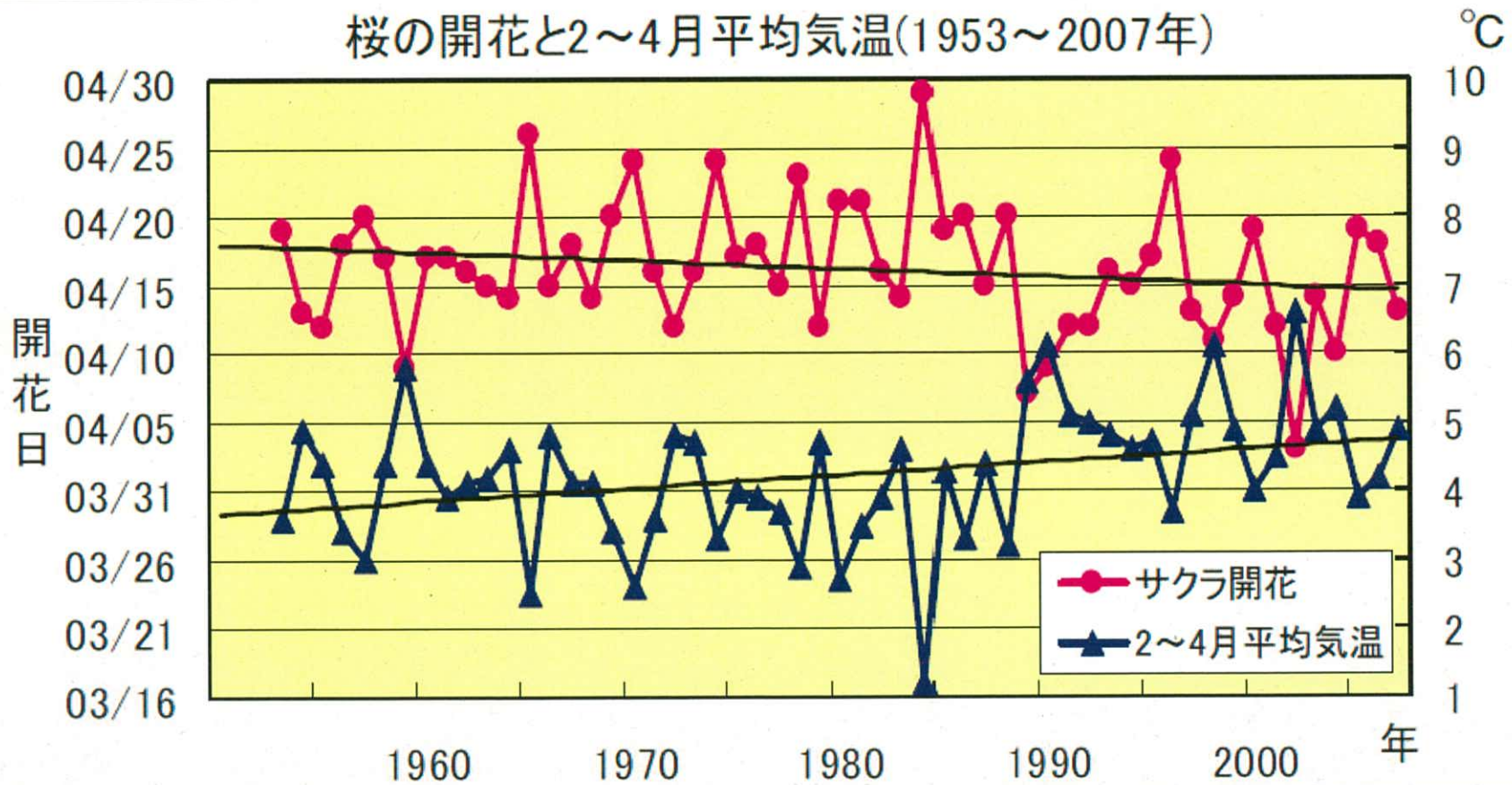
出典) 気候変動監視レポート2014

※縦軸は1000地点あたりの観測回数。
※棒グラフは年々の値を、折れ線は5年移動平均値、
直線は期間にわたる変化傾向を示す。
25 ※トレンド=2.2回/10年



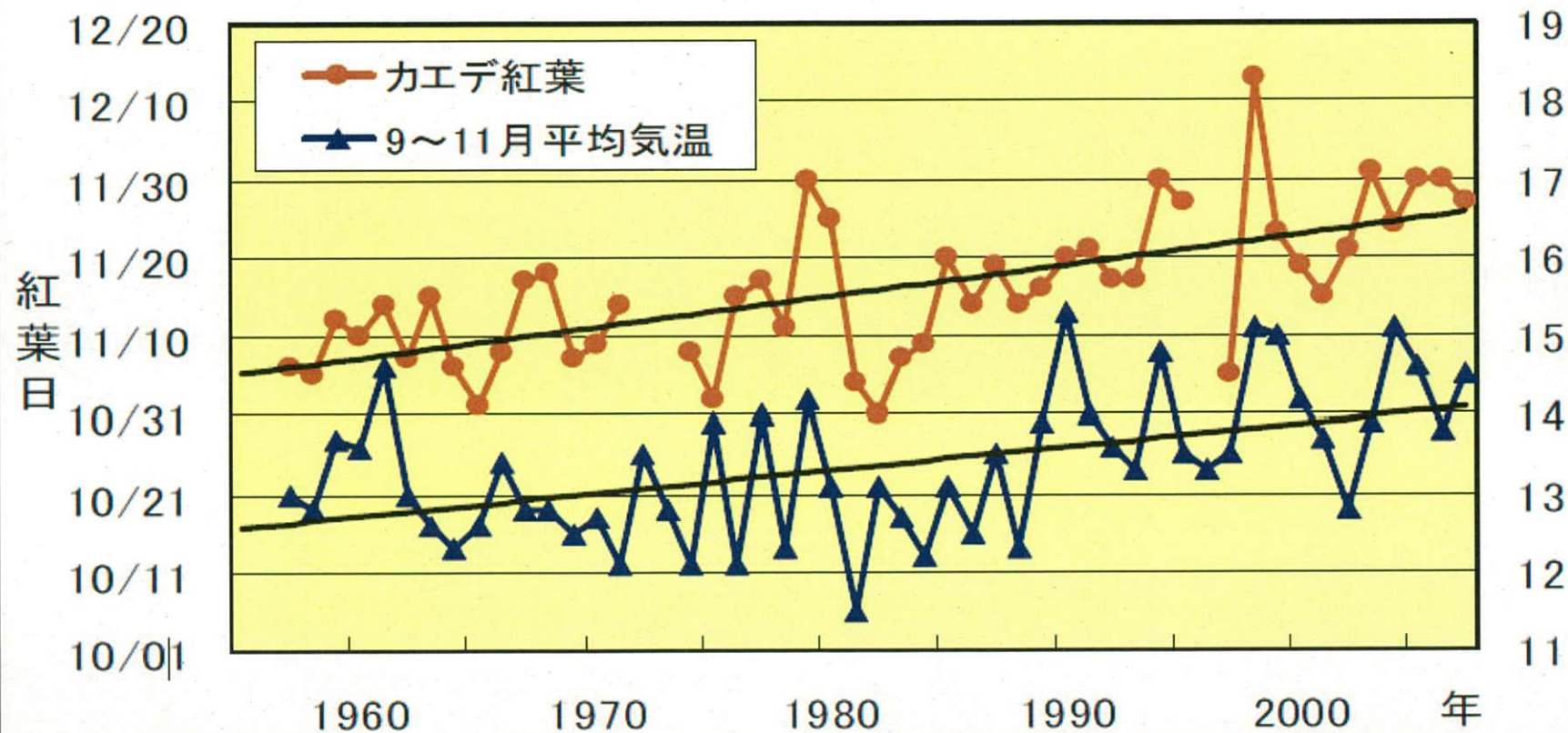
山形の桜の開花は？

桜の開花と2～4月平均気温(1953～2007年)



山形のカエデの紅葉は？

山形のカエデ紅葉と9～11月の平均気温(1957～2007年) °C





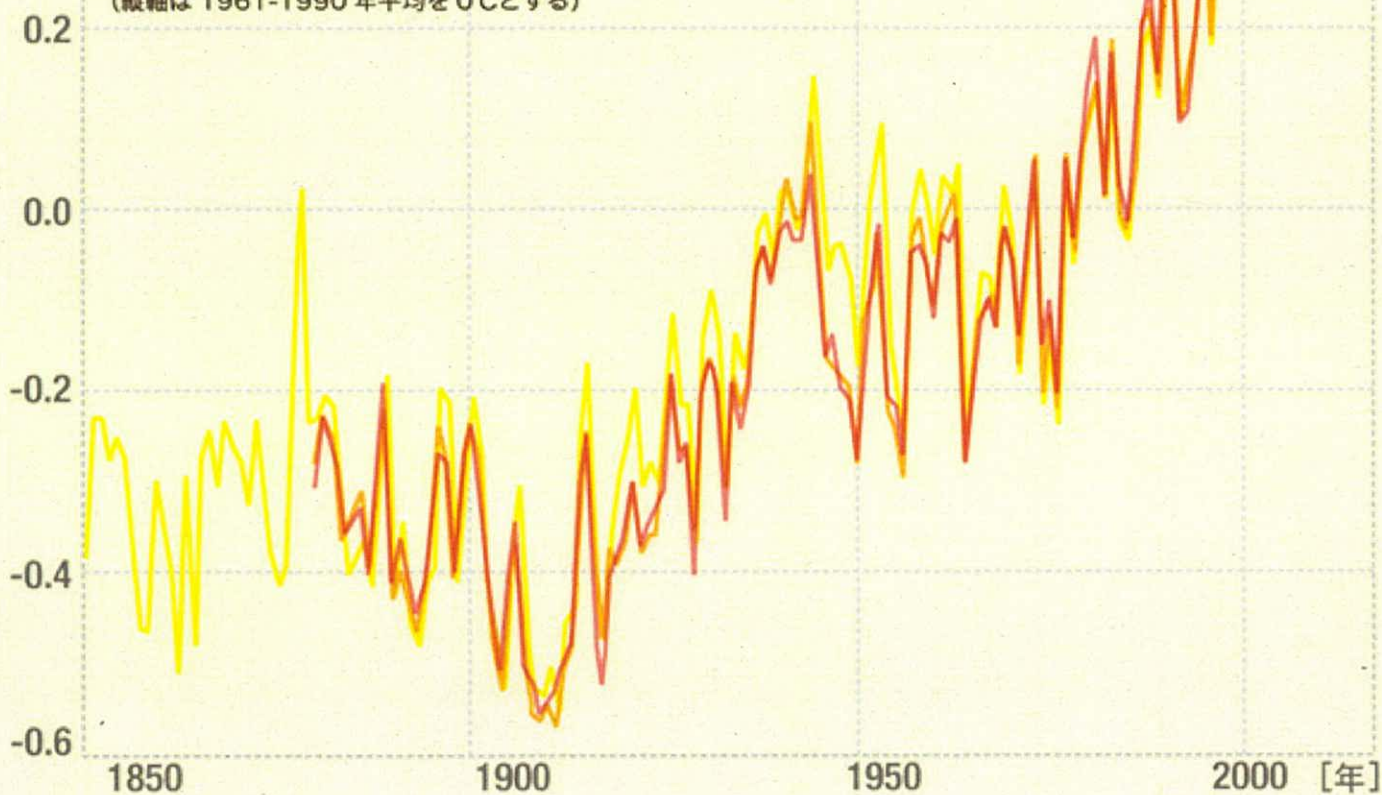
[°C] 地球の気温は
どのくらい
上がったの？

0.85°C上昇
1880-2012年

0.4 世界の地上気温の経年変化(年平均)

出典) IPCC第5次評価報告書 WGI Figure SPM.1

※偏差の基準は 1961-1990 年平均
(縦軸は 1961-1990 年平均を 0°Cとする)



[°C]

地球の気温は これからどうなるの？

4.0 1950年から2100年までの気温変化(観測と予測)
出典)IPCC第5次評価報告書 WGI Figure SPM.7(a)

最大
4.8°C上昇
2081-2100年

RCP 8.5 高位参照シナリオ
(IPCC第5次評価報告書 WGI Figure SPM.7(a))
2100年における温室効果ガス排出量の最大排出量に相当するシナリオ

RCP 2.6 低位安定化シナリオ
(IPCC第5次評価報告書 WGI Figure SPM.7(a))
将来の気温上昇を2°C以下に抑えるという目標のもとに開発された排出量の最も低いシナリオ

※2005年以降の予測部分は複数の気候予測モデルに基づく予測データ
1986~2005年の平均値を0.0°Cとする
※黒の観測部分は42、赤のRCP8.5は39、青のRCP2.6は32の気候予測モデルの平均を算出
※陰影は、個々のモデルの年平均値の標準偏差の範囲を示す
※グラデーションは、各RCPシナリオに対して、2081-2100年の平均がとる可能性が高い値の範囲を示す

1950

2000

2050

2100
[年]

